

2023年10月31日



PDRファーマ株式会社

放射性医薬品領域の医療情報システムに係る資産譲受に関するお知らせ

PDRファーマ株式会社(本社:東京都中央区/代表取締役社長:棚橋 進、以下「当社」)は、本日、株式会社 RYUKYU ISG(本社:京都府南丹市/代表取締役:石垣 陸太、以下「RYUKYU ISG」)より、以下の放射性医薬品領域の医療情報システム関連資産を譲受いたしましたのでお知らせいたします。これらの製品は、放射性医薬品の投与による医療被ばく線量の管理を電子化することで、医療従事者の業務効率化を実現するとともに医療事故リスクの低減にも貢献する医療 DX(Digital Transformation)ソリューションとして、今後は当社が主体となって当該資産に係る製品の製造・販売・保守サービス等を行ってまいります。

1. 「Bridgea GATEWAY」 <医療データ通信ソフトウェア>

「Bridgea GATEWAY」は、当社が販売する放射性医薬品の自動投与装置「Bridgea INJECTOR」と接続することにより、薬剤投与量に関する情報の院内システムとの連携や、患者さんの医療被ばく線量について国際標準規格を満たした情報通信を可能とする製品です。(※注)

2. 「Bridgea TIMER」 <PET(Positron Emission Tomography)検査時間管理システム>

「Bridgea TIMER」は、「Bridgea INJECTOR」、「Bridgea GATEWAY」との自動連携により、PET 検査の時間管理を医療従事者間で共有し、リアルタイムに患者さんの検査状況を確認することを可能とする製品です。(※注)

3. 「onti」 <医療被ばく線量管理システム> (2023年度グッドデザイン賞受賞)

「onti」は、医療被ばく線量の電子記録・管理・最適化を支える情報システムであり、医療被ばく線量の情報の取り扱いに関する国際標準データフローに準拠する製品です。付属する「onti ポータブル」端末を使用し、放射性医薬品の製剤情報をQRコードから読み取り、院内の様々なシステムとの連携を可能とします。

4. 「ankan」 <医療安全管理システム>

「ankan」は、国際標準のデータフローを満たすクラウド型の医療被ばく線量管理システムであり、放射性医薬品領域で取り扱うデータの収集・分析などを自動で行い、患者さんの医療被ばく線量の情報管理を可能とします。

これらの製品の活用により、医療機関において患者さんへの放射性医薬品の投与から使用後の被ばく線量管理までを電子化することとともに、各システム間でのシームレスな情報管理が可能となります。

当社は、放射性医薬品の供給に加え、情報管理に関する課題を解決するための、データやデジタル技術を駆使した医療DXと組み合わせたトータルソリューションを提供してまいります。

※注:「Bridgea GATEWAY」、「Bridgea TIMER」ともに、「Bridgea INJECTOR」のオプション品として従前より RYUKYU ISG に製造委託していたものを当社が販売しておりましたが、今般の資産譲受に伴い、今後は当社による自社製造・販売に切り替わります。

PDRファーマについて

PDRファーマ株式会社は、1968年に事業を開始して以来、放射性医薬品等の製造・販売・研究開発等を通じて高品質の放射性医薬品を提供してまいりました。放射性医薬品による革新的な診断と治療の実現により、一人ひとりの生命(いのち)を輝かせることを当社ビジョンとして掲げており、現在 22 品目の SPECT 診断薬、2品目の PET 診断薬、及び8品目(3製品カテゴリー)の治療薬を国内で販売しております。詳細については、<https://www.pdradiopharma.com/>をご覧ください。

【本リリースに関するお問い合わせ先】

ペプチドリーム株式会社 IR 広報部 沖本

TEL:044-223-6612